

問1 鉄砲伝来をきっかけに日本とヨーロッパ諸国との間で行われた貿易を何という？

1. 朱印船貿易 2. 南蛮貿易 3. 遣唐使 4. 日明貿易

問2 江戸幕府がキリスト教の広がりを抑えるためにとった政策を何という？

1. 禁教政策 2. 鎖国政策 3. 修学旅行 4. 廃仏毀釈

問3 戦国大名が自らの領国を治めるために、家臣や領民の行動を細かく定めた独自法を何という？

1. 武家諸法度 2. 御成敗式目 3. 公事方御定書 4. 分国法

問4 鉄砲伝来が戦い方や城の築き方に大きな影響を与えた時代を何という？

1. 鎌倉時代 2. 江戸時代 3. 戦国時代 4. 安土桃山時代

問5 戦国時代に、自らの領国を安定して支配し、独自の法律である分国法を定めた指導者を何という？

1. 江戸幕府将軍 2. 戦国大名 3. 鎌倉幕府将軍 4. 摂政関白

問6 上杉謙信が就任した、室町幕府において地方の統治を任される重要な職は何？

1. 関東管領 2. 征夷大將軍 3. 守護代 4. 室町幕府管領

問7 戦国大名が家臣や領民を統制するために制定した、独自の法律を何という？

1. 御成敗式目 2. 公事方御定書 3. 分国法 4. 武家諸法度

問8 1560年の桶狭間の戦いで、強大な軍勢を率いた今川義元を破り、全国に名を広めた武将は誰？

1. 武田信玄 2. 豊臣秀吉 3. 徳川家康 4. 織田信長

問9 1560年に尾張へ侵攻し、桶狭間の戦いで織田信長に奇襲されて敗れた駿河の戦国大名は誰？

1. 今川義元 2. 武田信玄 3. 豊臣秀吉 4. 足利義昭

問10 1560年に織田信長が今川義元を破り、天下統一への足がかりを築いた戦いを何という？

1. 長篠の戦い 2. 桶狭間の戦い 3. 姉川の戦い 4. 小牧・長久手の戦い

問11 桶狭間の戦いで今川氏が衰退したことをきっかけに、独立して勢力を伸ばした武将は誰？

1. 織田信長 2. 豊臣秀吉 3. 今川義元 4. 徳川家康

問12 戦国大名が領国支配を強めるために築いた、家臣や商人を呼び寄せて住ませた場所を何という？

1. 宿場町 2. 港町 3. 城下町 4. 門前町

問13 日本に鉄砲が伝わったのは西暦何年？

1. 1543 2. 1600 3. 1603 4. 1549

問14 戦国大名が、領国内での勝手な勢力拡大を防ぐために制限した行為を何という？

1. 刀狩 2. 築城 3. 兵農分離 4. 検地

問15 越前国（現在の福井県）を本拠地とし、一乗谷を拠点として栄えた戦国大名は誰（どの氏族）か？

1. 武田氏 2. 浅井氏 3. 今川氏 4. 朝倉氏

問16 戦国時代、上杉謙信が武田信玄と何度も激しく争った戦いを何という？

1. 関ヶ原の戦い 2. 桶狭間の戦い 3. 川中島の戦い 4. 長篠の戦い

答え合わせ・解説

問1	答え 2 南蛮貿易	日本が南蛮人（ヨーロッパ人）との間で開始した貿易です。鉄砲や火薬、キリスト教のほか、時計、眼鏡、タバコなどの新しい文化が流入しました。日本からは銀や工芸品が輸出され、経済の活性化に大きな役割を果たしました。
問2	答え 1 禁教政策	江戸幕府はキリスト教の布教を禁止し、宣教師を国外へ追放する政策をとりました。信徒に対しては踏み絵を行わせたり、寺請制度で仏教徒であることを証明させたりして、徹底的に監視しました。
問3	答え 4 分国法	分国法は、大名が領国内の平和と秩序を守るために制定した法律です。家臣同士の争いを禁じる「喧嘩両成敗」や、土地に関する紛争のルール、納税の決まりなどが記載されていました。
問4	答え 3 戦国時代	この時代に伝来した鉄砲は、それまでの弓矢を主とした戦い方を一変させました。防御力の高い石垣を持つ城が必要となり、築城技術も大きく進化しました。織田信長などの強力な指導者がこれらを取り入れることで、効率的な軍事編成が可能になりました。
問5	答え 2 戦国大名	戦国大名は、自らの力で領地を拡大し、独自の軍事力や支配機構を持って領内を統治しました。分国法を定めて家臣や領民を支配下に置き、城下町を発展させるなど地域経済を動かす中心的存在となりました。
問6	答え 1 関東管領	上杉謙信は、周囲の武將たちに押し立てられる形で、名門であった関東管領の職に就任しました。これは彼が単なる地域大名ではなく、幕府から公的な権威を認められたリーダーであることを意味しました。義理を重んじる性格とこの役職の権威が重なり、多くの兵を集めることができました。
問7	答え 3 分国法	分国法は、大名が領国内の家臣や領民を統制し、社会秩序を維持するために制定した独自の法律です。ケンカの仲裁や年貢の徴収など、領地内の細かいルールが定められていました。
問8	答え 4 織田信長	1560年、大国である今川義元の軍勢が尾張に攻め込んできました。圧倒的に不利な状況の中で、信長は義元の本陣を狙うという奇策を用い、見事に勝利を収めました。この勝利は当時の人々に大きな衝撃を与え、信長の名前が全国にとどろくきっかけとなりました。
問9	答え 1 今川義元	1560年、義元は2万以上の大軍を率いて尾張へ侵攻しました。しかし、織田信長が本陣を奇襲するという大胆な作戦を敢行した結果、義元は不意を突かれて討ち取られてしまいました。この戦いは「桶狭間の戦い」と呼ばれます。
問10	答え 2 桶狭間の戦い	織田信長は圧倒的な兵力差があった今川軍に対し、敵の本陣を急襲する奇襲作戦をとりました。この戦いで今川義元を討ち取ったことは当時の社会に大きな衝撃を与え、信長の名が一躍全国に知れ渡ることとなりました。
問11	答え 4 徳川家康	1560年の桶狭間の戦いで主君である今川義元が織田信長に討たれると、混乱に乗じて三河（現在の愛知県東部）を本拠地として独立を果たしました。信長とは同盟を結び、協力関係を築きながら勢力を拡大していきました。
問12	答え 3 城下町	城下町は、大名の居城のまわりに家臣の屋敷や商人の町などを配置して形成された町です。家臣を一箇所に集めて住まわせることで、大名の統制が行き届くようになり、同時に商工業者も呼び寄せて産業を活性化させました。
問13	答え 1 1543	1543年、種子島に漂着したポルトガル人が鉄砲を伝えました。当時の領主であった種子島時堯がこれを受け、すぐさま国内での国産化に成功しました。
問14	答え 2 築城	戦国大名は、分国法の中で家臣が勝手に城を建てる「築城」を厳しく制限しました。これは、家臣が勝手に防御拠点を築いて独立したり、反乱を起こしたりすることを未然に防ぐためです。
問15	答え 4 朝倉氏	朝倉氏は、本拠地である一乗谷に城下町を築き、家臣を一箇所に集めることで領国支配を強めました。一乗谷は当時の政治・経済・文化の拠点として非常に発展し、京都の文化を取り入れるなど高い文化水準を誇りました。
問16	答え 3 川中島の戦い	1553年から1564年までの間に、両者は信濃の川中島付近で5回にわたり激突しました。特に第4回目の戦いが最も激戦だったとされており、両軍合わせて多くの犠牲者を出しました。互いに実力を認め合うライバル同士の戦いとして有名です。